

平成29年度 自己評価書

甲府市立北新小学校

校長 大村 一也	記述者 教頭 饗場 宏
----------	-------------

本年度の学校教育目標

- すすんで学習する子ども ○ 健康づくりをする子ども
- 思いやる心をもつ子ども ○ 根気よくはたらく子ども

～北新小の子は～

あいさつをします。 友だちと仲よくします。 がんばりがまんをします。

自分のおもいを自分のことばで伝えます。 よく学びよく遊びよく働きます。

学校経営の重点

- 1 全教職員の協働と共創の中で自らの研鑽を積むとともに教育の日常性を重視し、児童理解に努め、児童・職員一人一人が生き生きと輝く学校・学年・学級づくりに努める。
- 2 行事や活動を通して楽しい学校・特色ある学校をめざすとともに、心豊かでたくましい子どもの育成に努める。
- 3 自ら学ぶ意欲や態度を育てる。
- 4 健康安全指導の充実と運動能力・体力の向上を図り、自他の生命を尊重する子どもの育成に努める。
- 5 学校と家庭・地域との相互の連携を深め、地域に根ざした開かれた学校づくりに努める。

学校評価の改善

- 1 「学校評価ガイドライン」(文部科学省 平成28年3月22日)〔評価項目を検討する際の視点となる例〕を参考に、評価項目の改訂を行った。
- 2 PDCAマネジメントサイクルによる学校改善をより効果的に実施できるよう、評価項目数を精選し、改善すべき方向性を絞りやすくした(42項目→30項目)。さらに、来年度以降、領域ごとに評価すべき観点を隔年で実施する方向性を確認した。
- 3 児童アンケート及び保護者アンケートの結果をもとに、全教職員が参加する自己評価を実施した。

1 全体に関わって

30項目中、総合評価が90ポイント以上が22項目、89～80ポイントが5項目、79～70ポイントが3項目、70ポイント未満が0項目となっており、全体的には肯定的な評価結果と言える。しかし、80ポイント未満の項目については本校の課題と捉え、具体的な改善策を考え、共通理解を図りながら取り組んでいきたい。

また、意見や自由記述で出された課題等についても全職員で検討を行い、改善に向けた取組を行っていく。

2 各項目ごとの評価

I 教育課程・学習指導	状況（評価項目数：5）
	<p>① 総合評価では、4項目が90ポイント以上、1項目が88ポイントである。</p> <p>② 4段階評価では、1項目に「C」評価がある。</p> <p>③-1 「全体について」の意見等・自由記述欄 検討点として教職員の負担軽減や休み時間と授業のバランスについてなどが、肯定的な意見としては研究指定校として成果があがったこと・児童の成長の過程に着目すべきという内容が挙げられた。</p> <p>③-2 「花づくり活動について」の意見等・自由記述欄 検討点としては教職員の取組姿勢・負担軽減・児童の関心のさらなる伸長などが、肯定的な意見としては担当職員の努力・児童の心を豊かにする効果が挙げられた。</p> <p>③-3 「吹奏楽活動について」 検討点としては修理費等の捻出・負担軽減・児童の関心のさらなる伸長・総合の時数減や北光まつりの内容変更に伴う活動時間の確保などが、肯定的な意見としては担当職員の努力・児童の心の成長やたくましさの伸長などが挙げられた。</p>
	改善策など

① 88ポイントであった評価項目「児童生徒の学力（全国学調等）を把握し、それを踏まえた取組や教育課程の編成を行っている。」は、4段階評価で「A」「B」がそれぞれ7回答あり、「C」「D」はない。このことから、抜本的な改善ではなく、全教師が本校の学力調査をしっかりと把握し、それぞれの授業改善により積極的に取り組んでいくことを確認し、改善を図る。
参考：平成29年度 全国学力・学習状況調査の結果から捉える課題 2017.6.26

国語
目的や意図に応じて、話の構成や内容を工夫し、自分の考えを話したり書いたりすることに課題がある。

算数
示された方法を問題場面に適応することや目的に適したグラフを選ぶことに課題がある。

② 「C」評価があった（1回答）評価項目「特色ある学校づくりに向け、学校行事などの管理・実施が適切に行われている。」は、「意見等・自由記述欄」で挙げられた検討点に論拠があると推測し、次の③で示す改善を図る。

③-1
委員会活動は高学年にとって大切な役割であり、今後も、その活動が休み時間に行われる意義を理解させることに努める。昼休みがない日課（B日課等）であっても、衛生環境・学習環境・勤労学習（根気よくはたらく子ども）の面からも日課としてそうじをなくすことはしない（緊急の事態はそうじなしもあり得る）。友達との活動時間・教師との対話

	<p>等の確保については、昼休みがない日課があることを見通す中で、児童の実態に応じ授業内容の工夫等に対応する。</p> <p>月2回の「きずなの日」（『きずなの日』には、放課後、教員が児童生徒と向き合う時間を創出するとともに、定時以降早めに退校する。）を着実に実施し、勤務時間を意識した働き方を心掛ける（『教員の多忙化改善に向けた取組方針』山梨県教育委員会 H29.3.31）。ノー残業デー・早めに帰るデーの履行を心掛ける。</p> <p>1学期音楽集会は、各学年の音楽の時数とのかかわりで休み時間に設定した経緯があり、設定時間・内容については別途協議し、休み時間での実施とする。</p> <p>土日に教職員が参加する行事について、別途回復措置を実施しながら、職員相互に協力し合って実施していく。「地域と共にある学校」（平成27年12月21日中教審答申）の趣旨も踏まえる。</p> <p>③-2, ③-3</p> <p>花づくり活動・音楽吹奏楽活動にかかわって、「好きですか」（児童）・「関心が高い」（保護者）の設問について、「C」「D」へ回答する意識の多さを改善するために、花や音楽に関わる話題提供をする機会を分掌ごとに意図的に増やしていく。</p> <p>職員相互に協力し合って実施していくこと、職員と外部ボランティアによる対応によって実施していくこと、費用負担については公的予算の工夫や各種助成・PTAバザー収益等で可能な範囲で支出していくこととする。（『教員の多忙化改善に向けた取組方針』山梨県教育委員会 H29.3.31「V 学校が取り組む具体的な実践事例 6 地域人材の活用」）</p> <p>北光まつりでの「講座」を発展的に開催しないこととし（『教員の多忙化改善に向けた取組方針』山梨県教育委員会 H29.3.31「V 学校が取り組む具体的な実践事例 2 学校行事の負担軽減」）、「講座」の趣旨・内容は、学年の実態に応じ、教科等の中で行っていくこと、「講座」準備時間として行ってきた吹奏楽活動の時間をなくし、その練習時間は、放課後練習をもって確保していく。</p>
--	---

	<p>状況（評価項目数：3）</p>
II	<p>① 総合評価では、全項目が98ポイントである。</p> <p>② 4段階評価では、「C」「D」評価はない。</p> <p>③ 意見等・自由記述欄では、検討点としては「こだま1」「こだま2」「こだま3」の名称変更が、肯定的な意見としてはコーディネーターの活躍による成果が挙げられた。</p>
特別支援教育	<p>改善策など</p> <p>特別支援コーディネーターのリードのもと、情報の共有など、特別支援学級への支援も組織的に行え、また個別のニーズに応じた支援も充実させることができた。</p> <p>名称については、在籍する児童の保護者の意見も尊重しながら、検討課題とする。</p>

	<p>状況（評価項目数：5）</p>
III	<p>① 総合評価では、4項目が90ポイント以上、1項目が88ポイントである。</p> <p>② 4段階評価では、「C」「D」評価はない。</p> <p>③ 意見等・自由記述欄では、検討点としては全職員による共通理解に基づいた指導の再確認・道徳教育や保護者との連携等のさらなる充実が、肯定的な意見としては迅速対応できたこと・「家庭学習の手引き」の効果が家庭の意識改善という形で見られたという内容が挙げられた。</p>
生徒指導	

	改善策など
	<p>本年度は、スクールカウンセラーが配置され、またコーディネーターの細やかな差配で「困り感」を抱える児童や保護者へ教育相談支援を充実して行うことができた。</p> <p>家庭学習促進の取組が、家庭との新たな連携を生み出している様子が見られた（チェック回数は校内研究等の機会に検討する）。</p> <p>これまで同様、児童の話をよく聴いたり、声かけをしたりし、一人一人の児童の様子を的確に把握し、家庭とも連携を図りの確な対応をしていく。また、未然防止と早期発見のため、生徒指導主任を中心として情報交換を密に行い、全職員で組織的に対応していく。</p> <p>家庭・地域・関係機関との連携を深めるため、「報・連・相」を確実に実施し、各職・各分掌がそれぞれの立場で対応しながら、相互に連携を図る。</p>

	状況（評価項目数：3）
IV 保健 管理 安全 管理	<p>① 総合評価では、全項目が98ポイントである。</p> <p>② 4段階評価では、「C」「D」評価はない。</p> <p>③ 意見等・自由記述欄では、検討点として、より実践的な防災訓練の実施が挙げられた。</p>
	改善策など
	<p>本年度は、①教室からの避難経路の確認・非常時の一時対応等についての指導、②引き渡し訓練、③防犯訓練、④地震発生想定避難訓練、⑤Jアラート警報想定シェイクアウト訓練2回、⑥火災発生想定避難訓練、⑦休み時間に地震発生想定避難訓練を行った。避難経路上での児童の動線交錯解消や児童玄関前で一時集合の解消など、訓練を通して見出された課題を改善してきた。本年度取り寄せて各学級に配付した防災学習（「まもる命ひろげる防災」日本赤十字社）などを使用した指導を徹底したい。</p> <p>今後は、防犯教室を発達段階に合わせ実施する。</p> <p>例：「いかのおすし」「防犯ブザー」を主な内容として、123年生を対象に実施。 「スマホの危険」を主な内容として、456年生を対象に実施。</p> <p>防犯訓練（不審者侵入場面）を隔年で実施とする（H29実施→H30未実施→H31実施）。</p> <p>シェイクアウト訓練を予告なし（校長・教頭・教務主任以外）で年複数回実施する。</p>

	状況（評価項目数：4）
V 運営 組織 研修	<p>① 総合評価では、3項目が90ポイント以上、1項目が88ポイントである。</p> <p>② 4段階評価では、1項目に「D」評価がある。</p> <p>③ 意見等・自由記述欄では、検討点としては校外での研修の難しさが挙げられた。肯定的な意見としては外国語教育の公開研究会で多くの職員が参加できたことが、また、拡大校内研究会での成果や教職員の協働の成果が挙げられた。</p>
	改善策など
	<p>小規模校ゆえに校務分掌を複数持つことになる本校の状況であるが、適切な分掌のもと、教職員が協働して教育課題に取り組むことができた。また、情報の管理についても徹底できた。</p>

本年度は、拡大校内研究会での授業公開に向けチームとして授業改善や家庭学習等に取り組むことができ、大学先生方や参観者から多くの賞賛の声をいただいた。来年度から移行実施される外国語活動についても、多くの職員が見識を広げようと、公開研究会に参加するなど意欲的に研修に励むことができた。校内研究会にも大学先生方・市教委学力向上対策員・県教委指導主事を招聘し、より先進的な研究成果を学ぶことができた。

VI	状況（評価項目数：3）
	<p>① 総合評価では、全項目が95ポイント以上である。</p> <p>② 4段階評価では、「C」「D」評価はない。</p> <p>③ 意見等・自由記述欄では、検討点としてはPTA球技大会の在り方が、肯定的な意見としては情報発信のさらなる推進が挙げられた。</p>
	改善策など
	<p>PTA球技大会については、PTA学校委員会などで成果を検証しながら、PTAとして実施の有無や方法を検討していく。</p> <p>今後も、学校評価をもとにPDCAマネジメントサイクルに基づいた改善が行うことや、地域とともにある学校・地域に開かれた学校として積極的に情報を公開することを進めていく。</p>

VII	状況（評価項目数：2）
	<p>① 総合評価では、全項目が95ポイント以上である。</p> <p>② 4段階評価では、「C」「D」評価はない。</p> <p>③ 意見等・自由記述欄では、検討点として、文房具類が不足しそうな時の確認事項の徹底が挙げられた。</p>
	改善策など
	<p>今後も、安全点検を着実にを行うことや、教材等の適切な整備を進めていく。</p>



不易の部分を大事にすることは、心身共に強い子を育てることになり、それが生きる力になる。「北新小の子は」は不易の部分の習慣化をめざし、平成22年度より設定した項目である。よって、前掲の評価項目が適時改訂したのに対し、以下は行っていない。

北 新 小 の 子 は	状況（評価項目数：5）
	<p>どの項目も児童の健全な成長の根源となる大切な項目であり、例年、職員の評価も厳しめに行われている傾向がある。本年度は、5項目中80ポイント台の総合評価が2項目、70ポイント台の総合評価が3項目となっている。</p> <p>一方、前年比で見ると、5項目中4項目の総合評価ポイントが改善している。</p>
	改善策など
	<p>「あいさつをします」 昨年度より、総合評価としては改善が見られる。 児童会本部の工夫した取組と教師の共通認識による指導により、朝、児童玄関前や登校して教室に行く前に職員室にあいさつに来る児童が増え、気持ちよい朝を迎えることができている。今後とも指導や取組を推進し、通学路でも大きな声であいさつできること、あいさつをする子・しない子の二極化を解消することを目指していくことが求められる。また、ふだんの生活の中であいさつをするという習慣が定着していないと思われることから、学校だけではなく、家庭や地域と連携した取組をさらに進めていくことも大切である。</p> <p>「友だちと仲よくします」 昨年度より、総合評価としては改善が見られる。 たてわり活動や吹奏楽活動の充実によって、高学年が低学年のめんどうをよく見るなど、学年を超えたつながりが定着してきている。今後も、継続して取り組みたい。課題として、言葉遣いの改善が挙げられており、意図的に言葉の大切さを伝える指導を行いたい。時には思いや感情が前面に出てしまい児童間でトラブルが生じることもあるが、それらも大切な学習の場面であることから、自分が嫌なことは人にもしないということ、相手の立場になって考えさせる指導を通し、友だちと仲よくできる子どもを育てていきたい。</p> <p>「がんばりがまんをします」 昨年度より、総合評価としては改善が見られる。 集団で生活する中では、自分の思いどおりにならなかったり、いやでもやらなければならない場面はよくある事である。そのような時に、「なぜそれがいけないのか」「どうしてこれをしなければならないのか」を理解させた上で、できたときにしっかり褒めてあげることが自己肯定感、自己有用感、成功体験をもたせることにつながる。一つ一つの経験の積み重ねが大切なので、根気よく継続して「がんばりがまん」で指導していく必要がある。</p> <p>「自分のおもいを自分のことばでつたえます」 昨年度より、総合評価としては改善が見られる。 新学習指導要領で示された「主体的・対話的で深い学び」の実現ため、対話的な学習や言語活動を積極的に展開し、ことばで伝える力の伸長を今後ともめざしていきたい。 日常の生活の中では、「うまく伝えられない」「伝え方がよくない」等でトラブルになることがあり、これが「友だちと仲よくします」という面でのトラブルの原因になっていることが多い。言葉で伝えることができず手を出してしまったり、まちがえた行動をとってしまったりすることも見受けられる。否定的な言葉ではなく、お互いが前向きになれる言葉で伝えることを機会を捉えて指導をし、道徳の時間や学級指導、集団活動などを通して、相手を思いやる心や、適切なコミュニケーションのとり方について指導していく。 職員室への入り方など、日常の中での「話し方」の指導も継続して行っていく。</p> <p>「よく学びよく遊びよく働きます」 昨年度より、総合評価としては低下した。 児童会の取組や生徒指導の成果もあり、一生懸命清掃活動に無言で集中している児童が増え、働く姿勢の向上が見られた。今後は、「進んで」「工夫して」という姿勢や「主体的」「能動的」な姿勢をめざし、できないことに目を向けるのではなく、できたことに目を向け賞賛することで、働くことへの意欲の向上を図る指導・支援を行ってきたい。 「よく学び」は家庭との連携、「よく遊び」「よく働き」は師弟同行の姿勢が大切になるという意見の通り、家庭との学習面のさらなる連携、異学年や教師との遊びや活動の充実を通し、何事にもやりがいや目標をもって取り組む児童の育成を図っていきたい。</p>